

東日本大震災の被災地の過酷な状況を知り、ボランティア活動を希望する人は少なくない。しかし、被害が甚大な地域では自治体の機能すら回復しておらず、ボランティアを受け入れる態勢は整っていない。思いだけが先走り、被災者に迷惑をかけては本末転倒だ。また、ボランティア活動は被災地以外でも可能だ。ボランティアで支援するための注意事項をまとめた。

\*

「水に食料、マスク、たくさん持ってきました。お

年寄りの方おられたら運びます。声かけてください」。21日、津波による浸水被害が多かった宮城県石巻市鹿妻で、若い男性が大声を張り上げた。東京都港区のリサイクル業「日本リユースシステム」の社員らが、被災した関連会社の支援を兼ね、同市に10トトラックで物資を運んだ。実は、近くの避難所に支援物資を運んだが「管理できないので受け取れない」と断られたため、住宅地で配ったのだ。山田正人社長は「行政も混乱して疲弊しているが、困っている人たちに物資を届けたかった」と語った。